

今後の金ケ崎町の生涯教育のあり方について（案）

I 始めに

金ケ崎町は昭和54年6月25日に生涯教育の町を宣言しました。

時代が変化する中、その時代に合わせた人間らしさや豊かさ、住みやすさを生涯教育の実践に求め、その願いをかなえるための学習を行ってきましたが、令和元年（2019年）に発生した新型コロナウイルスの感染拡大等を受け、様々な活動が中止を余儀なくされ、生活環境や価値観が大きく変わりました。

このような中、これからの金ケ崎町における生涯教育のあり方について、町民や行政、関係機関が考え、実践していくために、これからの生涯教育の方向性について整理を行います。

II これまでの成果

1 生涯教育に期待した役割

(1) 宣言の経緯

金ケ崎町は昭和54年6月25日に「生涯教育の町」を宣言しました。このことは静岡県掛川市が昭和54年4月に「生涯学習都市宣言」を宣言した事に次ぎ、全国で2番目の宣言となりました。

これは、昭和53年に就任した当時の山路勝男町長が、町内の女性団体から生涯教育の重要性を説かれたことをきっかけに検討を重ね、昭和54年に宣言したものです。

当時のまちづくりは「豊かで、生きがいのある平和な共同社会の実現」を目指しており、「まちづくり」は「基礎集落づくり」であり、「基礎集落づくり」は「家庭づくり」であり、「家庭づくり」は「人づくり」であり、「まちづくりの究極は、人づくりにある」との考え方にもとづき、教育による実現を目指しました。

(2) 新たなまちづくりにむけた重要な役割

生涯教育のまち宣言の宣言文では、「人間らしい生活のあり方を文化と捉え、その実現を生涯教育に求める」とされています。

高度経済成長の中で、地域開発や環境公害対策、福祉の充実が図られる中、「人間らしい生活」は文化活動による心の豊かさがあるこそとの考えのもと、「よい人間になりたい」「豊かな生活をしたい」「住みよい町にしたい」という3つの実現すべき目標を定め、町民一人一人が「学習」「活動」「スポーツ」「工夫」「奉仕」に努めることで実現を目指すという考えです。

また、当時は東北自動車道や東北新幹線の延伸、岩手中部工業団地の造成・企

業活動の開始といった町の発展や都市化が著しく、町内を6つの生活圏に再配置し、小学校や幼稚園、地区生涯教育センターを整備するなど、新たなまちづくり、特に新たな地域コミュニティ（生活圏）の構築と機能化を果たすため、生涯教育は重要な役割を担いました。

2 生涯教育の成果

当町の生涯教育の成果は、10年毎に活動記録をまとめ、それまでの活動内容や課題等を整理してきました。

ここでは昭和54年の宣言時から10年単位での主な活動や社会情勢の変化等を踏まえ、生涯教育（ハード）・生涯教育（ソフト）・**地域**づくりの3つの視点での成果を整理します。

（1）昭和54年～昭和63年

ア. 生涯教育（ハード）

各生活圏に幼稚園・小学校・地区生涯教育センターとった教育施設を整備する構想の基に施設を整備し、生涯教育センターについては昭和54年度に北部地区生涯教育センターが完成したのを皮切りに、昭和61年度の中央生涯教育センターの完成を持って、6つの地区生涯教育センターと中央生涯教育センターの計7館の整備を行いました。

イ. 生涯教育（ソフト）

全町規模の町民大学を開校し、東北大学開放講座などの大学教授を講師として招いた成人教育事業を開催するなど、特に「家庭教育」「健康」「スポーツ」分野の講座を中心に事業展開を行いました。

多くの社会教育団体・社会体育団体等が組織され、町全域あるいは各地区ごとに様々な学習活動を展開していきました。

また、各地区に体育館が整備されたこともあり、各地区でスポーツ活動が活発に開催されました。

ウ. **地域**づくり

それまでの講中や報徳会を中心とした住民自治活動から、町が主導した自治会の組織化、各種事業の開催に関する指導、集会所建設等に関する補助金の交付といった自治会組織の整備の他、自治会連合会を中心とした交流事業等により、新たな地域コミュニティの一体感の醸成を目指しました。

（2）平成元年～平成10年

ア. 生涯教育（ハード）

町立幼稚園の整備を進め、平成10年度に完成した南方幼稚園で6園が完成し

た他、スポーツ関連施設の整備も進め、平成5年度に森山総合運動公園を平成9年度に和光ドームが完成しました。

また、図書館建設を進め、平成10年度中に図書館が完成し、平成11年度から現在の図書館として利用がスタートしました。

この時代に求められた「人間らしい生活のあり方」について、自然環境などの豊かさに加え、道路や上下水道、文化的な施設といった都市的な機能、文化的な機能のバランスが必要との考えから都市的な豊かさの実現にも取り組みました。

イ. 生涯教育（ソフト）

地区生涯教育センターという学習の拠点が出来たこともあり、生活圏毎に様々な社会教育団体、社会体育団体が増加した他、各地区生涯教育センターに総合型スポーツクラブを設置し、地域スポーツの振興を図りました。

また、環境保全のため、環境教育事業等にも力を入れ、特に子ども達に対する学習機会の創出や国際理解事業としての中学生海外研修や町民大学での講座開催など、新たな学習課題に対応しました。

ウ. 地域づくり

自治会活動などによる集会所の利用の増加などを受け、同一自治会内に集落ごとの集会所や農業などの機能別の集会所の建設が進むなど、地域づくりにおける施設の整備が引き続き行われました。

(3) 平成11年～平成20年

ア. 生涯教育（ハード）

幼稚園・小学校・地区生涯教育センターやスポーツ施設といった生涯教育に関する施設の整備が終わり、平成13年に国の選定を受けた、城内諏訪小路伝統的建造物保存地区等、文化財の保存等に力を入れてきました。

一方で、平成16年の国の三位一体改革や夕張ショックをきっかけに、市町村は緊縮型の財政運営を余儀なくされ、住民と行政による協働のまちづくりが進められました。

イ. 生涯教育（ソフト）

これまで町が企画していた町民大学等に自主企画講座を設けるなど、行政主導型の生涯教育から町民の自発的な活動を重視する形が進みました。

スポーツ分野では、平成11年度に岩手インターハイが開催され、金ケ崎町はソフトボール競技の会場となりました。

また、それまで正職員を配置していた地区生涯教育センターは正職員の引き上げが行われました。

ウ. 地域づくり

平成19年度に地域づくり大学金ヶ崎校を開校し、地域と行政の協働の地域づくりを進めるため、自治会毎に5か年の地域づくり計画を策定し、**地域づくりを進めました。**

また、生活圏単位に地域活性化委員会を設置し、自治会とその他の団体等が一体となった地域づくりを**推進しました。**

(4) 平成21年～平成30年

ア. 生涯教育（ハード）

地方創生の取り組みが推進され、各市町村が人口減少対策の取り組みを進めました。

中央・地区生涯教育センターや町文化体育館、森山総合運動公園などは施設の老朽化などによる修繕等が中心となり、文化材では鳥海柵跡が国指定史跡になるなど文化財の保護を進めました。

イ. 生涯教育（ソフト）

英語教育のまちとして幼稚園・保育園から中学校まで町独自の英語学習のカリキュラムの追加等を行った他、3育（子育・食育・地育）を中心とした生涯教育の推進を目指しました。

また、町民劇場の立上げなど、新たな文化活動の創出にも取り組みました。

ウ. 地域づくり

高齢化や人口減少等を背景に、自治会活動等に対する負担感の増加などが顕著になる中、平成30年度に「金ヶ崎町地域づくりのあり方検討会最終報告書」をまとめ、地域の実情に合わせた地域づくりへの見直しを提言し、自治会等が主体的に地域行事の見直しや組織の見直し等を進めました。

Ⅲ 社会を取り巻く環境の変化

【例】第4期教育振興基本計画第1章を引用

1 将来予測が困難な時代

新型コロナウイルス感染症の感染拡大やロシアのウクライナ侵攻、グローバル化の進展などにより、将来の予測が困難な時代になっています。

また、日本の国際的な地域の低下、環境などの地球規模の課題、地域間格差、社会のつながりの希薄化などが社会課題となっています。

2 デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展

新型コロナウイルス感染症の感染拡大当初、日本はICTの活用が十分でなく、デジタルへの対応の遅れが浮き彫りになりましたが、これを契機として遠隔・オンライン教育が進展し、学びの変容をもたらされました。

今後もDXの進展により社会に良い変化をもたらす可能性がある中、デジタル人材の不足や、AIやロボットの発達により、特定の職種では雇用が減少し、今後は問題発見力や予測、革新性といった能力が求められるとの予測があります。

3 精神的豊かさや健康までを含めた幸福や生きがい

経済先進国では経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える「ウェルビーイング（Well-being）の考え方が重視されてきています。

また、社会の多様性が進む中、障害の有無や年齢、文化的・言語的背景、家庭環境などに関わらず、誰一人取り残されることなく、誰もが生き生きとした人生を享受することができる共生社会の実現を目指す必要があります。

4 持続可能な社会に創り手の育成

予測できない未来に向けて自らが社会を作り出していくという視点では、「持続可能な社会の創り手」という学習指導要領前文に定められた目指すべき姿を実現する必要があります。

（第2回審議会協議事項）

ここでは文部科学省が策定した第4次教育振興基本計画に記載されている社会の変化の一部を記載していますが、これらを参考に金ヶ崎町における地域・社会の環境の変化についてご協議願います。

IV 今後の生涯教育について

今後の金ケ崎町の生涯教育のあり方について、次の4つの視点で整理を行います。

- (1) 生涯教育の目的
- (2) 必要な学習内容と学習環境の整理
- (3) 地域づくりの整理
- (4) 生活圏の機能と役割の整理

1 生涯教育の目的

生涯教育の目的は、人間らしい生活のあり方を文化と捉え、文化活動により精神的な豊かさを備えた人づくりを目指し、生涯教育を実践により実現しようとするものであり、これは普遍の理念になります。

ここでは「よい人間になりたい」「豊かな生活をしたい」「住みよい町にしたい」という3つの願いが、これからの生涯教育を実践していくうえで、どのような姿を指すのかを検討します。

昭和54年6月25日

わたしたちは、「人間らしい生活のあり方」を文化ととらえ、その実現を生涯教育に求め、いまよりも

- よい人間になりたい
- 豊かな生活をしたい
- 住みよい町にしたい

このような願いをかなえるために、「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」、

- ひとり いち学習
- ひとり いち活動
- ひとり いちスポーツ
- ひとり いち工夫
- ひとり いち奉仕

に努めましょう。

ここに全町民とともに金ケ崎町を「生涯教育の町」とすることを宣言する。

(1) これまでの変遷

高度経済成長に伴う経済的な豊かさが拡充する中、文化活動こそが「人間らしい生活のあり方」であるとの考えのもと、金ケ崎町の生涯教育がスタートしました。

その後、安定成長・バブル経済と経済は発展する中で、個人や地域、行政による様々な学習活動を行ってきましたが、時代の変化とともに地域や行政

による学習活動は減少している状況です。

このことは、令和2年2月に第十一次金ケ崎町総合計画策定時に行ったアンケート調査でも「芸術文化や生涯学習が必要」と答えた方は少ないことから、あまり必要性を感じていないことがわかります。

(2) これからの生涯教育の目的

①よい人間になりたい

②豊かな生活をしたい

③住みよい町にしたい

【参考：町民憲章】

教育と文化を高め 明るいまちをつくりましょう

教育を高め すべての世代に夢と希望をそだてる
一生を通じて 豊かな教養と趣味を養う
広い視野に立ち 正しい判断で行動する
文化財を大切にし 進んで清新な文化をつくる

健康で働き 豊かなまちをきずきましよう

心身ともに明るく 健康で安全な生活をする
衛生的で 美しくうるおいのある環境をつくる
勤労に喜びと誇りをもち 生産をたかめる
進んだ技術を身につけ 産業の近代化をはかる
創意と工夫により ゆとりのある生活をする

あたたかい心をむすびあい 住みよいまちをつくりましょう

明るく楽しい健全な家庭をつくる
礼儀を正しく 新設と寛容とでとけあってくらす
責任を重んじ 時間と約束を守り きまりある生活をする
子ども・老人・不幸な人をいたわり すべての人のしあわせを守る
公衆道徳と公共物をたいせつにし 進んで社会に奉仕する

(第2回審議会協議事項)

ここでは金ケ崎町民憲章を記載していますが、これらを一つの参考としながら、生涯教育の3つの目的について、具体的な姿をご協議願います。

2 必要な学習内容と学習環境

(1) 学習内容、学習環境にかかる課題

(第2回審議会協議事項)

「1 生涯教育の目的」の協議結果を踏まえ、現在の学習内容や学習環境にかかる課題について、ご協議願います。

(2) 必要な学習内容

(3) 生涯教育の定義と必要な学習環境

3 地域づくりの整理

(1) 地域づくりの課題

(2) 社会教育と地域づくりの関係性

(2) 今後の地域づくりのあり方

4 生活圏の機能と役割

V 生涯教育としての行政の役割

1 地区生涯教育センターの役割

2 中央生涯教育センターの役割

3 その他の教育施設の役割

第3回審議会協議事項
(令和6年5月予定)

第4回審議会協議事項
(令和6年7月予定)

第5回審議会協議事項
(令和6年8月予定)

※令和6年9月に最終とりまとめを予定 (第6回審議会)